

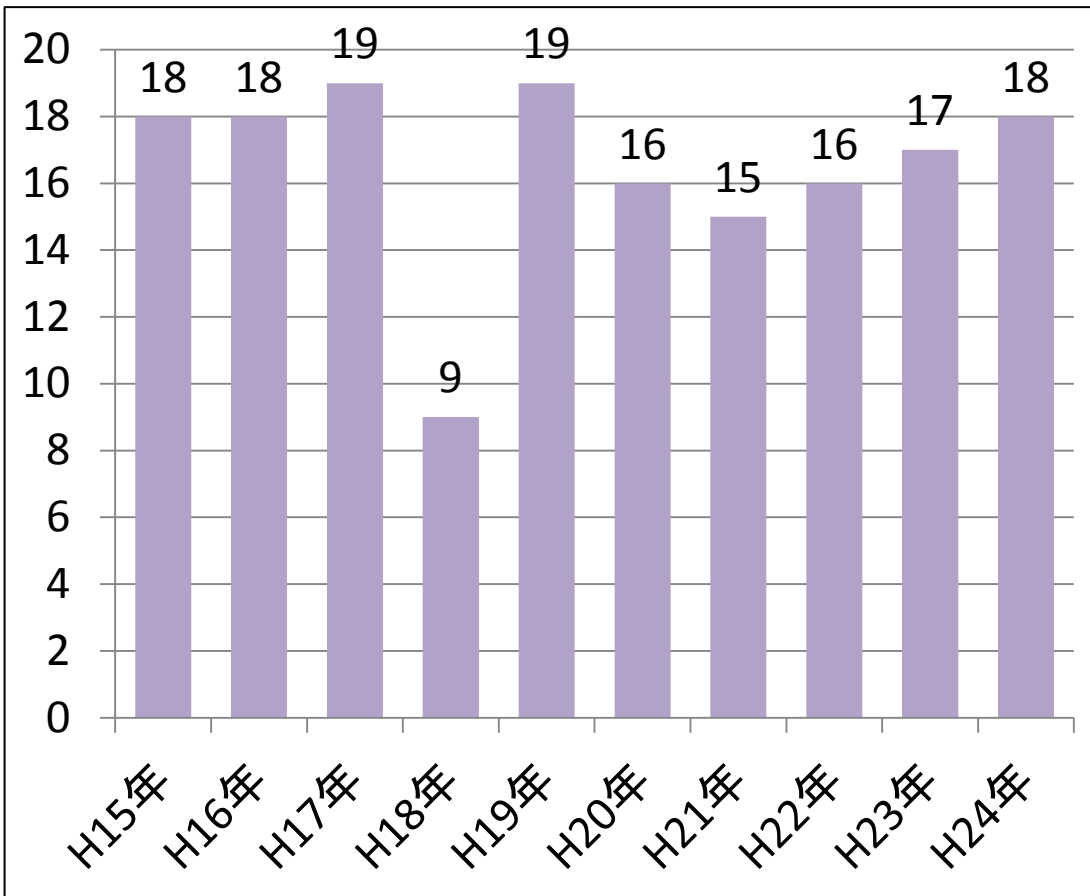
熊野大花火大会時における 熊野尾鷲道路の有効活用

H25.2.28 紀勢国道事務所

熊野大花火大会の現状(入れ込み客数)

○熊野大花火大会の入れ込み客数は、例年15万人超

○平成24年大会では、約18万人が来場

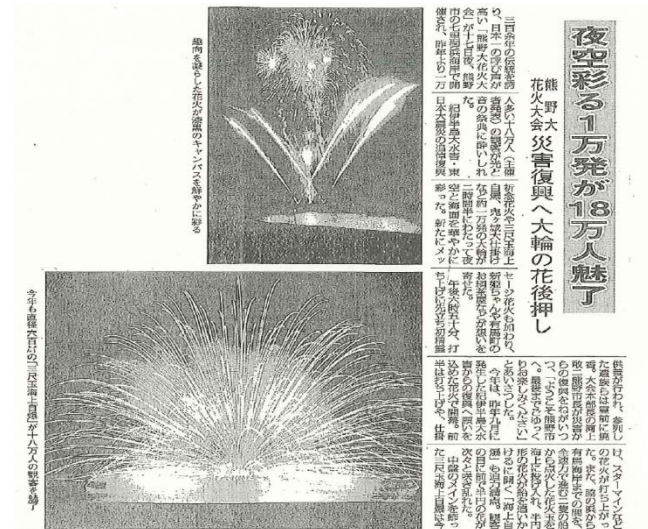


熊野大花火大会の入れ込み客数(万人)

※主催者発表



平成24年大会時の海岸の様子



熊野大花火大会の現状(国道42号の交通量)

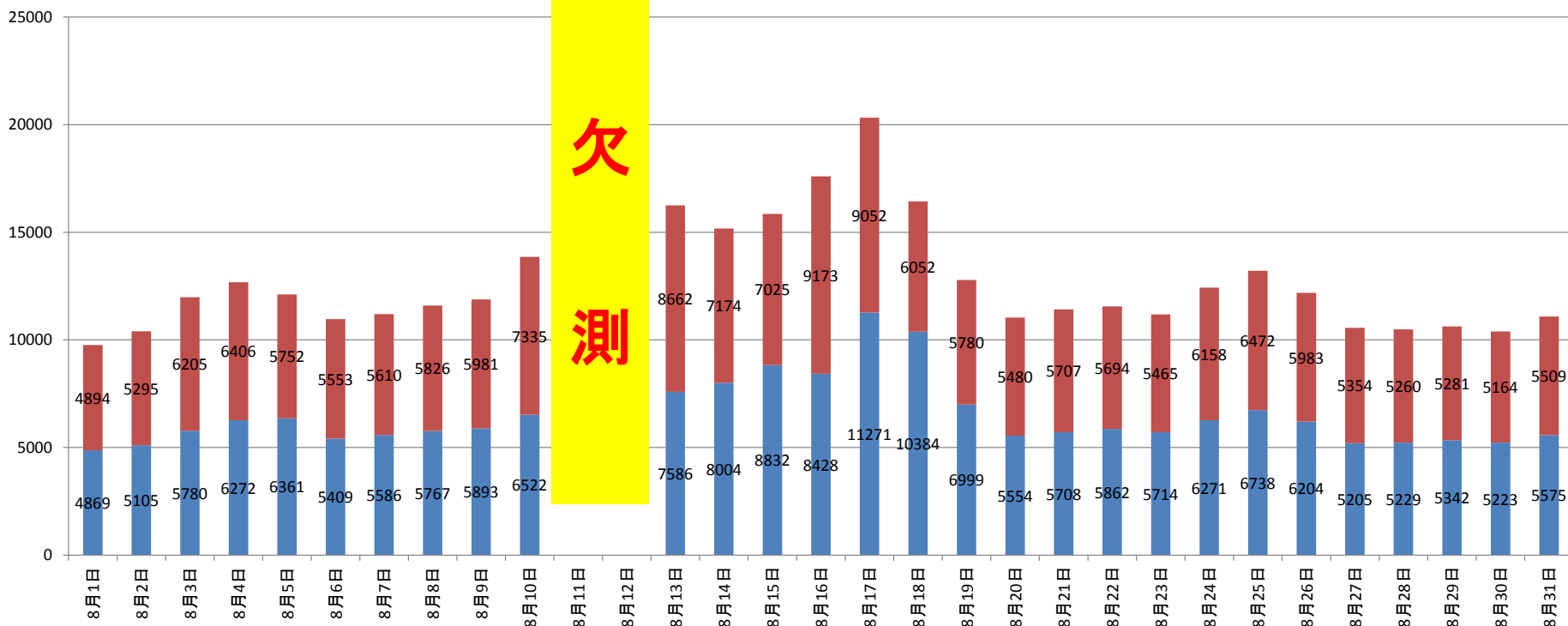
○平成24年の国道42号の大内山の8月の日交通量は盆にかけて増加傾向で、熊野大花火大会の8／17を境に減少

○8月の標準時は約11000台前後、8／17は約2万台超

大内山 2012年8月における日交通量

■ 新宮方面
■ 松阪方面

(台)



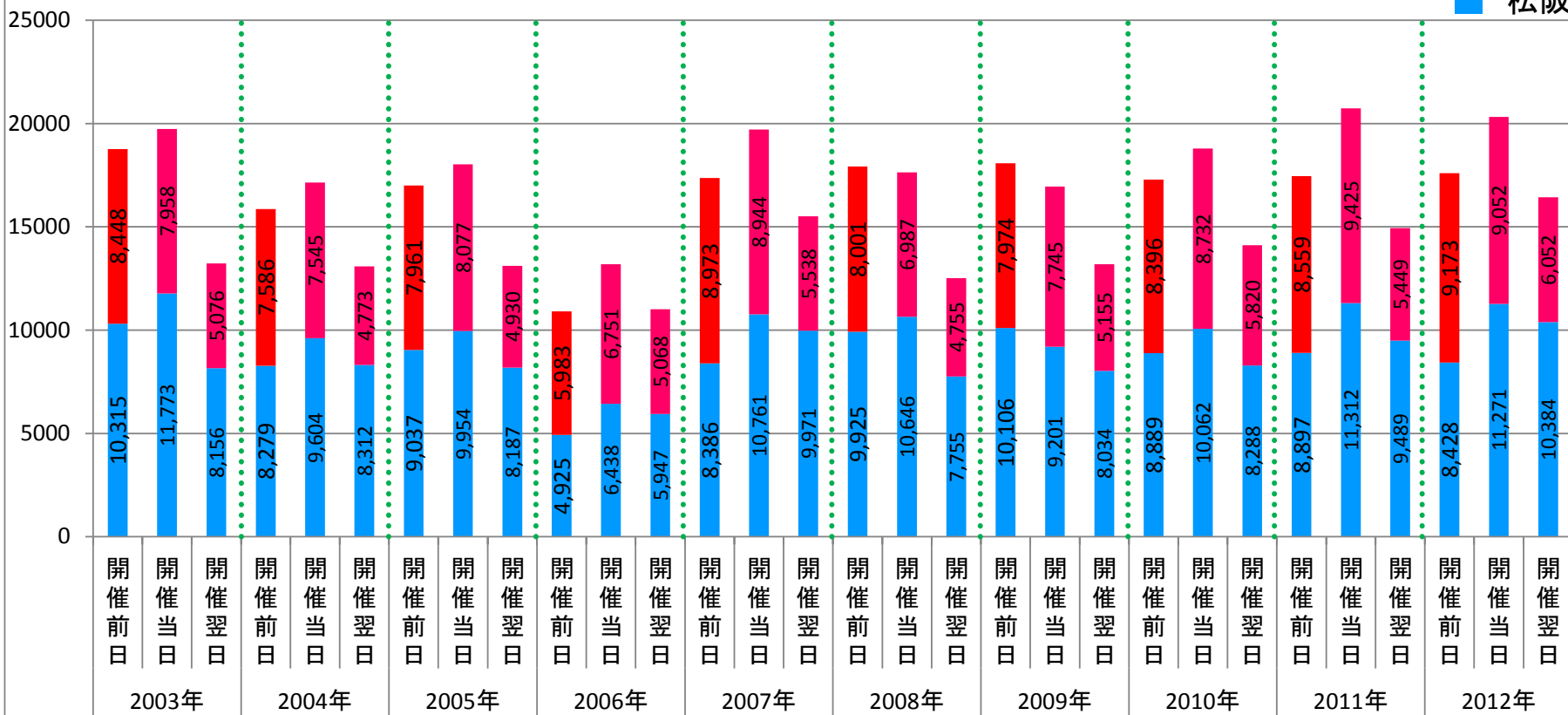
熊野大花火大会の現状(国道42号の交通量)

○国道42号の大内山における日交通量は、ここ10年間で微増傾向

○ここ2年間では、花火大会当日の交通量は2万台を超過

熊野大花火大会(前日・当日・翌日)過去10年間の交通量の推移【大内山】

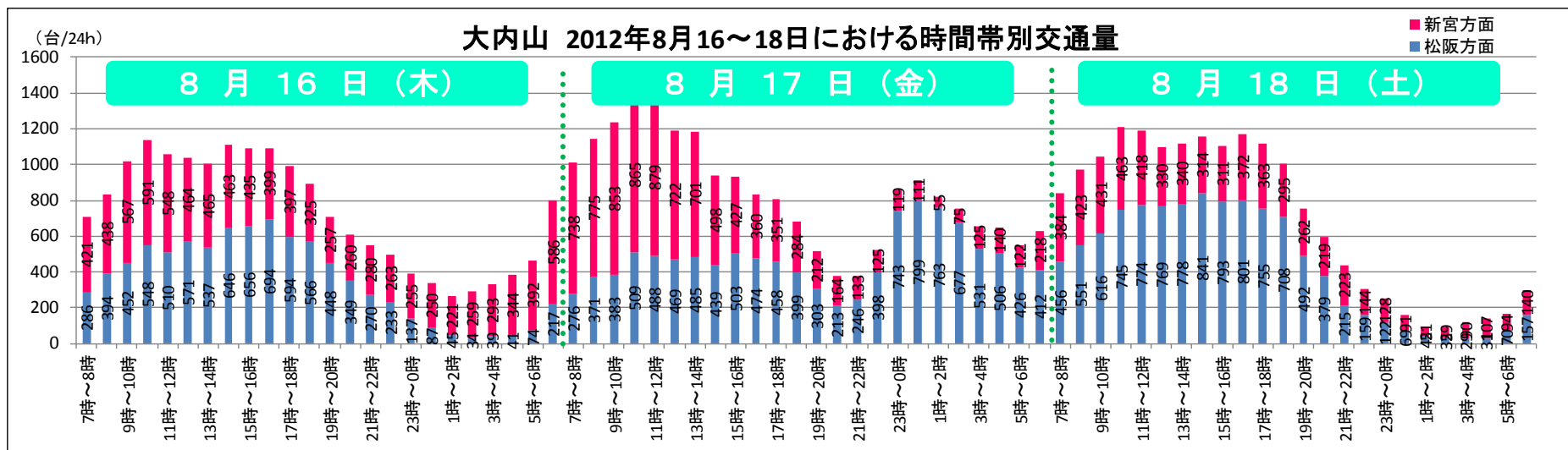
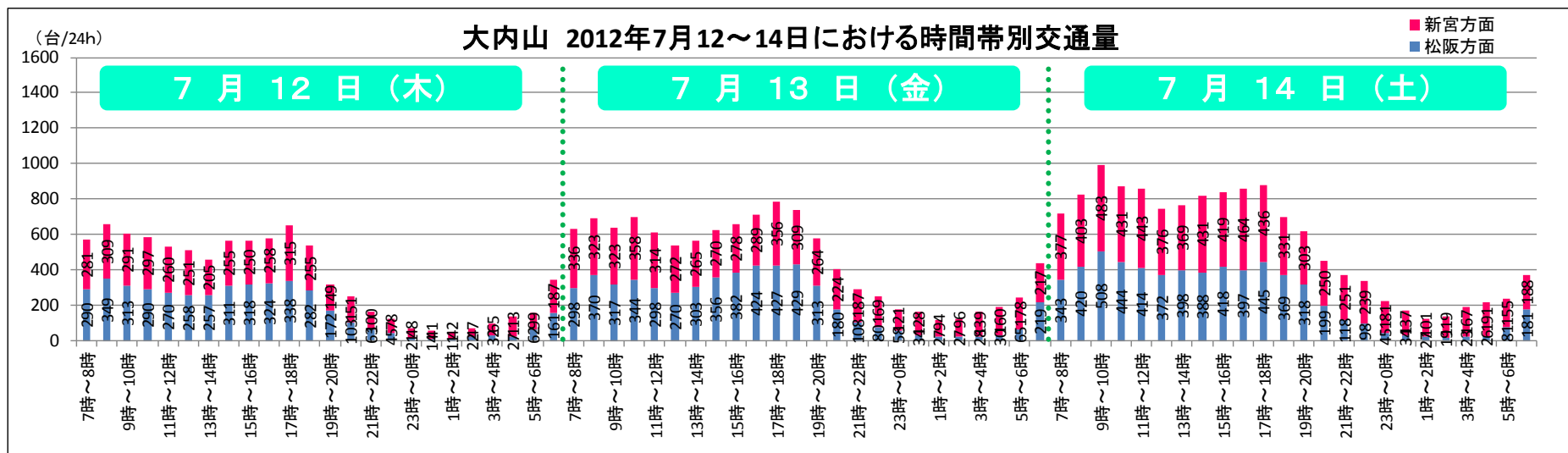
■ 新宮方面
■ 松阪方面



※交通量は常時観測トラカン7時～翌7時(24h)にて算出。

熊野大花火大会の現状(国道42号の交通量)

○平成24年の国道42号大内山における時間帯交通量は、花火前日からお盆の時期と重なることもあり、通常時よりかなり多い状況



熊野大花火大会の現状(国道42号の渋滞状況)

- 主要な道路が国道42号しかなく、駐車スペースも限られていることから、毎年多くの渋滞が発生。平成24年度は約23kmの渋滞が発生
- 花火終了後、来場者が一気に帰路につくため、午前2時頃までは、渋滞が継続(混乱防止のため、花火終了後1時間程度は、国道42号は通行止め)



会場より7km手前の渋滞状況
(※この時点での渋滞長は約20km)



花火大会終了後の国道42号の状況
(※国道42号は全面通行止め)

過去5年間の観客数と渋滞長

	H20	H21	H22	H23	H24
観客数	16万人	15万人	16万人	17万人	18万人
渋滞長	5km	7km	15km	17km	23km

国道渋滞、過去5年で最長
熊野大花火 往路で22・7キロ

今年8月17日に熊野市の七里御浜海岸で開催された「熊野大花火大会」は、昨年の台風災害の影響で、往路としていた道路が通行できず、国道42号に車が集中したため、過去5年で最も渋滞した。また、大会終了後の同国道の規制解除時間も過去5年で最も遅く、前年より約1時間30分長引いた。

市が4日、警察や消防、公共交通機関、自治会など関係機関・団体で課題点などを話し合っ「熊野大花火大会反省会」で発表した。

今年、週末の金曜日開催で、混雑が見込まれていたほか、これまで往路として利用されていた県道・林道6路線が被災して通行できず、国道42号の渋滞延伸が予想されていた。

観客数は、前年比で1万人増の18万人。道路交通は、往路が午後4時から、矢ノ川トンネル尾鷲側坑口1.5付近から熊野市方面に22・7キロ渋滞した。復路は、国道42号で18日午前1時57分に規制が解除された。人身事故はなかったが、物損事故は14件発生。救急出動は7件あった。

反省会であいさつした大会本部部長の河上政二市長は「来年は土曜日開催で、天気が良ければ今年以上の人が見込まれる。上がった課題を今後の運営に反映させ、安全に見てもらえる花火大会にしていきたい」と述べた。

今年の熊野大花火大会の完結を説明した反省会

熊野大花火大会の現状(救急搬送・防災・地域生活への影響)

○渋滞により、円滑な救急搬送への影響が懸念される

○東海・東南海・南海地震の被害が予想されている本地域において、有事の際の来場者の速やかな避難等への影響が懸念される

○バスの運休、夕刊が配達できない、ごみ収集ができなくなるなど、地域生活への影響が出ている



片側1車線のため、救急車の走行が困難

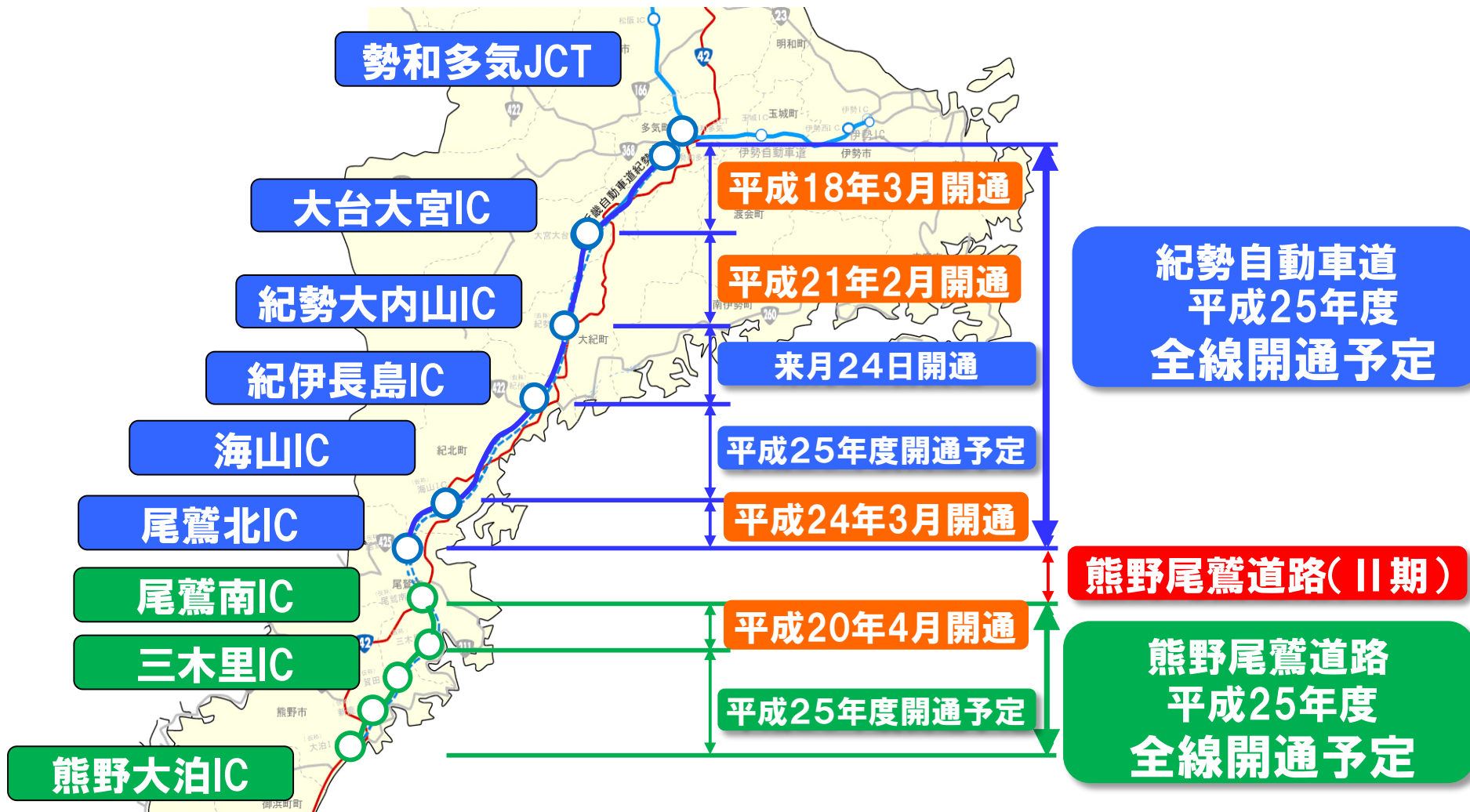


会場周辺は地震発生時に津波浸水が予測されている

東紀州地域の高速道路の整備状況

○平成25年度内に紀勢自動車道・熊野尾鷲道路が開通予定

○紀伊長島IC以南の料金は無料



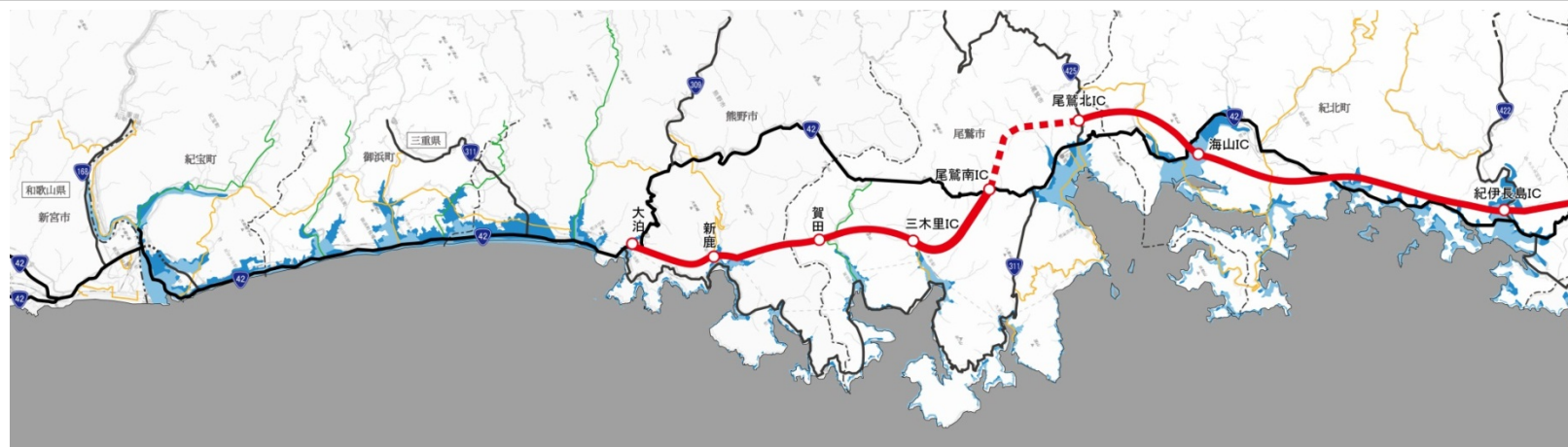
高速道路開通による開通効果(時間短縮)

- 名古屋－熊野市間の移動時間が約40分短縮
- 3時間を切ることにより、熊野市が日帰り圏域に

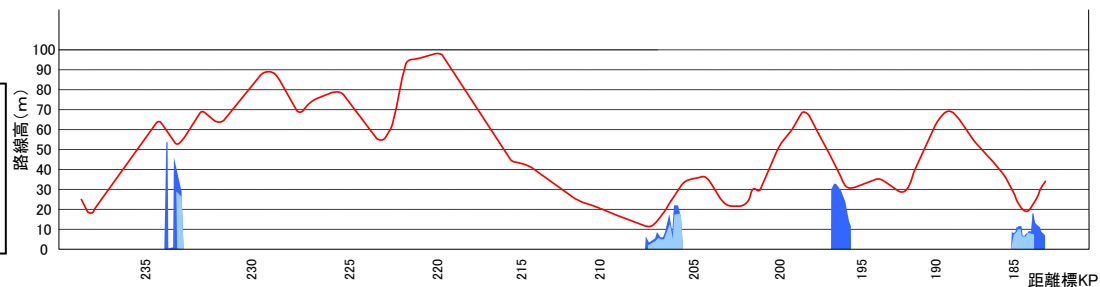
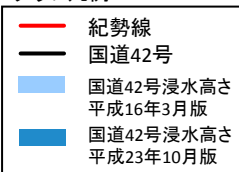


高速道路開通による開通効果(津波対策)

○紀勢自動車道・熊野尾鷲道路は、浸水区域を通過するが、路線高さは津波浸水高さ以上を確保している



グラフ凡例



熊野尾鷲道路の開通後の課題

○交通容量が増加し、渋滞緩和は期待されるものの、トンネル区間が約7割を占めるため、トンネル内の交通規制を考慮すると、大幅な渋滞解消は望めない
(現在、国道42号においては、トンネル内に車に停車させない措置をとっている)



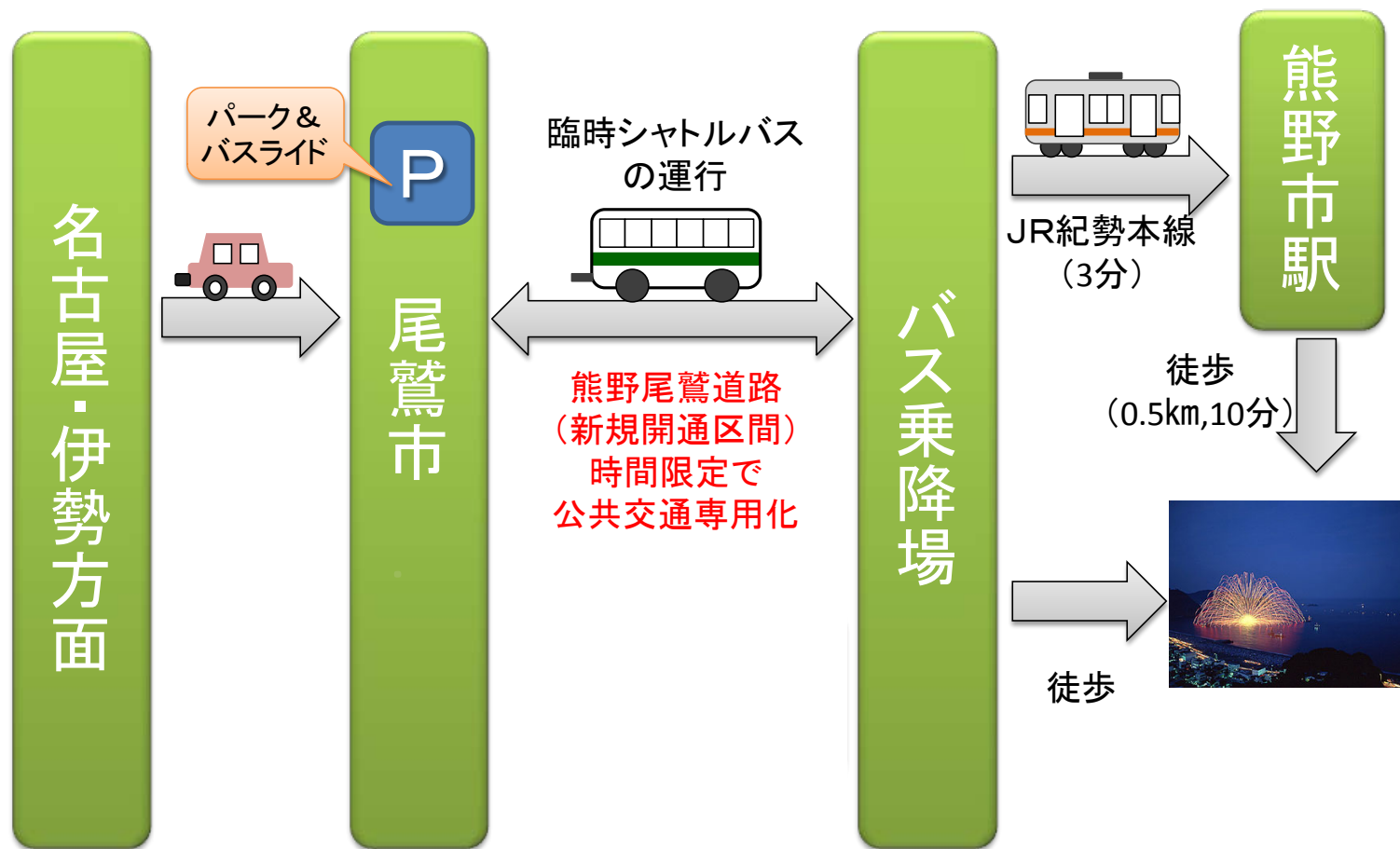
現在、国道42号のトンネルでは、トンネル内で車両が渋滞しないよう交通規制が行われている



実際に、トンネル手前で出されている交通規制の看板

熊野尾鷲道路を活用した渋滞緩和施策例

- 尾鷲市内に駐車場を設け、そこからシャトルバスを運行するP&BRを実施
- 熊野尾鷲道路を8／17の熊野大花火大会の日に限り、「公共交通機関の専用化」し、シャトルバス及び観光バス等のみが走行できる道路とする
- 一般車は国道42号の現道を走行してもらう



施策イメージ



期待される効果

●渋滞緩和

→尾鷲方面からの交通が分散されることで、渋滞の緩和が期待される

●定時制の確保

→現在、渋滞により花火開始時間に間に合わないバス・車が多くあるが、P & BRを活用することで、定時制の確保が期待される

●CO2削減

→渋滞緩和により、CO2削減が見込まれる

●さらなる来場者数の増加

→現在、列車の容量、駐車場スペースに限りがあるが、熊野市だけでなく、尾鷲市と広域的な連携を行うことにより、多くの来場者を受け入れることができるため、さらなる来場者の増加が期待される

P&BRの事例(伊勢神宮)

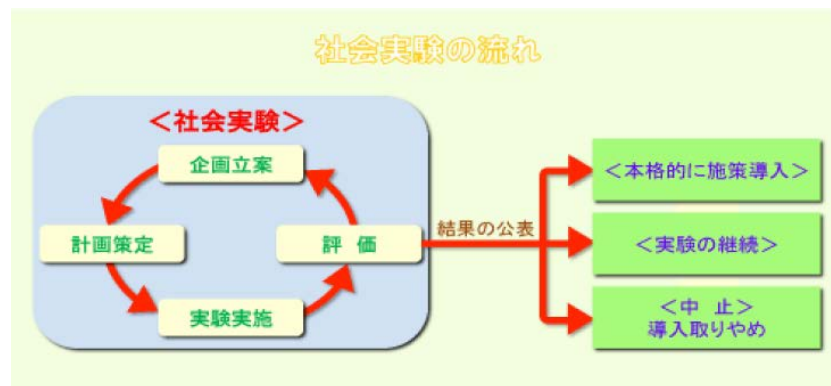


○実施日時(平成24年末～25年始)

- ・12月31日(月)午後10時
～ 1月1日(火) 午後4時
(臨時駐車場 ～ 外宮・内宮の2ルート)
- ・1月2日(水)
～ 1月6日(日) 午前9時～午後4時
(臨時駐車場 ～ 外宮・内宮の2ルート)
- ・1月12日(土)
～ 1月13日(日) 午前10時～午後4時
(臨時駐車場 ～ 内宮の1ルート)

※参考 国土交通省社会実験

社会実験とは、道路に関する先進的または斬新な施策について、本格実施するにあたり効果や影響を確認するため、場所と期間を限定して試行・評価する



出典：国土交通省道路局HPより

これまでの社会実験



自転車走行空間を創出した実験
(愛媛県松山市)



観光地におけるパーク＆ライドの実験
(岐阜県高山市)

出典：国土交通省道路局HPより

※参考 国土交通省社会実験

社会実証実験(社会実験)公募要項(抜粋)

平成24年度 道路に関する新たな取り組みの 現地実証実験(社会実験) 公募要項

1. 目的

この実験は、道路に関する先進的または斬新な施策について、当該施策を本格実施するにあたり、効果や影響を確認するため、場所と期間を限定して試行・評価するものです。

2. 実施主体

国土交通省と連携して実験を実施し、関連する関係者*からなる協議会等(以下、「協議会等」)とします。

ただし、協議会等には、関連する地方公共団体、および、国土交通省国道事務所または地方整備局等が構成員(オブザーバーである場合も含む)に含まれることが必要です。

※関係者とは、市町村、都道府県、国道事務所または地方整備局等、有識者、警察、NPO団体等です。

3. 募集する実験内容について

公募により広く企画の提出を求めるものであり、応募のあった内容について審査を行った上で、選定された応募者に対して現地での実験調査を委託します。

(1) 募集する実験の要件

以下の①②③のいずれかを満たしている必要があります。

①大規模自然災害発生時において、道路が有する防災機能等を発揮するための新たな取組で、その効果や課題の検証を早急に必要とするもの。

②道路の構造、占用等に関係する法令、基準、通達、事務連絡等の見直し(運用に関する場合を含む)に結びつく可能性のある先進的な施策で、その効果や課題の検証が必要なもの。
(対象となる法令等および改善提案内容を申請書に記載してください)

③新規性のある内容や検討手法等を提案し、全国的に周知・推奨すべき取組であることが見込まれ、その効果や課題の検証が必要なもの。
(新規性のある内容や検討手法等を申請書に記載してください)

また、社会資本整備審議会道路分科会の議論を踏まえ、ラウンドアバウト等の現在取り組まれている新たな交通安全施策や、道路空間をたまり場や収益活動の場として活用するための官民連携の取組など「中間とりまとめ(案)」(<http://www.mlit.go.jp/common/000206825.pdf>)に記載のある取組について応募

を奨励します。

(注)

・催事やイベントを目的として実施することはできません。

(2) 実施期間

実験の実施期間は平成24年度中となります。また、同年度内に結果をとりまとめて報告していただくこととなります。

(3) 実施体制

応募の際に、申請書類に協議会等の構成員毎の役割分担を予め示していただきます。実験の実施にあたっては、協議会等において、国道事務所または地方整備局等、地方公共団体、NPO団体等が連携して、それぞれが相応しい役割を果たすことを前提とします。

(4) 関係機関との調整

実験の実施までに、地元住民、国土交通省国道事務所または地方整備局等の関係行政機関との十分な調整が必要です。特に、実施に際して交通規制や道路の使用許可を要する場合については、所管の警察とあらかじめ十分な調整をしてください。

4. 費用に関する国の負担

国土交通省が負担する費用は、実施計画の策定のための費用、実施の準備・仮設のための費用、実施・運営のための費用、各種調査のための費用、効果分析・評価のための費用です。恒久的な施設整備のための費用や催事・イベントに係る経費については対象となりません。

協議会等において、別途独自に予算を調達していただくことも可能です。国土交通省が負担する額は1,000万円以下を想定しています。

5. 応募方法等

(1) 申請方法

実験の申請を行う際には、協議会等の代表者がまず応募案件登録書(様式1)を作成し、実施地域を所管する地方整備局等(別紙1)に提出してください。これにより案件登録がなされます。そののち、公募申請書(様式2)を作成し、同じ地方整備局等に提出してください。公募申請書には必要に応じて参考資料を添付してください。

(2) 実験に関する相談、問い合わせ

申請しようとする実験内容についての相談や申請書類の作成方法等の問い合わせは、実施地域を所管する地方整備局等で受け付けております。なお、申請書

受付後に、応募内容について確認するため、提案のあった地域を担当する地方整備局等から必要に応じてヒアリングを実施することがあります。

(3) 申請書の受付期間

応募案件登録書受付期間

平成24年5月18日(金)～平成24年6月1日(金)

公募申請書の受付期間

平成24年6月4日(月)～平成24年6月29日(金)

※公募申請書の提出に先立ち、応募案件登録書の提出が必要です。

6. 実施地域の選定

(1) 選定の観点

提出された申請書に対して、以下の視点に着目して評価を行い、国土交通省で選定いたします。

大項目	小項目
実験する取り組みが、対象として要件を満たしているか	下記のいずれかの要件を満たしているか ・大規模自然災害発生時において、道路が有する防災機能等を発揮するための新たな取組で、その効果や課題の検証を早急に必要とするもの。 ・道路の構造、占用等に関係する法令、基準、通達、事務連絡等の見直し(運用に関する場合を含む)に結びつく可能性のある先進的な施策で、その効果や課題の検証が必要なもの。 ・新規性のある内容や検討手法等を提案し、全国的に周知・推奨すべき取組であることが見込まれ、その効果や課題の検証が必要なもの。
	背景が明確に記載されており、効果検証の必要性が認められるか
現地実証結果の評価方法、そのための調査計画が適切であるか	実験方法、実験場所、実験対象者等の内容について記載はあり、明確であるかどうか
	効果分析手法、情報周知方法等の内容について記載はあり、明確であるかどうか
	実施手順、スケジュール、実施費用等の妥当性について記載はあり、明確であるかどうか
地元住民、関係行政機関との調整等、実施に向けた合意形成の経緯が整っているか	協議会等の構成員の役割分担について記載はあり、明確であるかどうか
	関係機関との調整が進んでおり、実施見込みが高いかどうか

出典:国土交通省道路局HPより

アドレス

<http://www.mlit.go.jp/road/demopro/index.html>

※平成24年度の公募については締切済
(募集期間:平成24年6月4日～平成24年6月29日)

今後の進め方(案)

- H25年2月 第1回熊野大花火大会交通円滑化協議会開催
- ～ H25年花火大会における調査内容検討
- 8月 熊野大花火大会開催(現地調査)
- ～ 調査結果を受けた熊野尾鷲道路の有効活用方策提示
- ～ 熊野尾鷲道路全線開通
- ～ 熊野尾鷲道路の有効活用具体案提示
- H26年8月 熊野大花火大会(熊野尾鷲道路の有効活用実施)